



ビル・ハントレー
1994～95年度国際ロータリー会長

B.H.

英国の詩人、ジョン・ダンが書いています。「人は独立自足の孤島でない。人は皆大陸のひとつかけら……ただ本体の一部のみ……」。私たちは誰もが貢献を——個人として行動しながら、地域社会の発展に尽くすよう——求められているのです。しからばどのような心構えでこの帰属意識を養い、他の多くの人々に、より良い生活の機会を開いてあげられるのでしょうか？私の答は簡単です——勇気と品性に訴えるのみ：友達になろう、と。

友達になるために組織は必要ありません。大抵の人は寛大な心づかいを見せてくれます。しかし特に私たちロータリアンは奉仕活動によって、人権尊重をひとりひとりの生活尊重にまで転化しなければなりません。いかなる地域のいかなる人々も、家族、近隣、学校、職場等あらゆる場所において、公正、機会均等、人間的品位を求めています。私たちが個人個人を尊重することが、すなわち地域社会に貢献する道なのです。

心からなる思いやりをもって友達同士集い、喜び、悲しみ、慰めを共にするとき、そこにコミュニティが生まれます。地元であろうと遠く離れていようと、私たちは地域社会の苦悩に気がきます。まさかのときに地域はその人々を助けるか、無視するか、どちらかでしょう。地域社会のリーダーとしての私たちの歴史を見れば、とりわけロータリアンたる者、誰でも、このまさかのときに立ち上がり、心を尽くして対応するのに、またとないうってつけの人物となるのです。ロータリアンになるのにプログラムは必要ありません。友達にさえなれば、それでこそ文字通りロータリアンなのです。私たちは、私たちの地域社会を強化、維持するために、力を尽くさなければなりません。

相共に友達同士肩を寄せ合えば、期せずしてそこにコミュニティが生まれるのです。友達は、希望を支え、信念を高め、身をもって愛を実践します。私たちのロータリー社会は、楽しむためだけでなく責務を引き受けるために存在するのです。ですから、私たちは持てる力のすべてを發揮しなければなりません。その力は援助を必要としている人のもとに私たちを押しやり、決して傍観させておかないでしょう。

いざ友よ、高き志あれ、活力あれ、優しき心あれよ。人皆すべて……待ち受ける人々と、憧れ慕う人々と、苦しみ悩む人々と：友達になろう……



1994～95年度 RIのテーマ



BE A FRIEND

地元や職場で友達になろう

- 身をもって愛を実践することによって
- 家族と同僚との関係をより強化することによって
- 家族を亡くした人や孤独な人を慰めることによって
- あなたの思いやりを地域全体に広げることによって

地域の人々と友達になろう

- 地域の本当のニーズを見つけることによって
- プログラムを遂行し、共通の関心事において力を発揮することによって
- 帰属意識を養い、結束の強化を援助することによって

遠く離れた人々と友達になろう

- まだ出会ったことのない人々に友達として手を差し伸べることによって
- ロータリー財団を支援することによって
- 世界理解のために地域の関心事を世界の関心事にまで広げることによって
- 地域の努力を結集し、世界社会奉仕における世界的目標を達成することによって

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項目を鼓吹育成することにある：

第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；

第2 事業および専門職務の道德的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること；

第3 ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；

第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。